

東洋大学長 殿
To the President of Toyo University

ウクライナからの研究員 研究報告書
Research Report by Researcher from Ukraine

氏名 Name	アサドチフ・オクサーナ
所属大学名・職名(身分) Affiliation and position name	タラス・シェフチェンコ記念キーウ国立大学 言語教育学院 極東・東南アジア言語文学科の教授
研究課題名 Research topic	リモート教育に焦点を当てた日本語教育の指導方法
研究期間 Research period	2022年7月17日～2022年8月14日 From Y/M/D to Y/M/D
研究協力教員氏名(所属) Research partner (affiliation)	文学部 山口しのぶ 教授
研究成果発表 (予定も含む) Publication/Presentation (including future ones)	1) Polyfunctional using of digital applications in the process of teaching future orientalist philologists. <i>ITLT</i> , 81(1), 154-166. (WOS)
研究成果の概要 Summary of your research achievements	コロナ禍の中でのウクライナにおける高等教育制度への影響について調べ、遠隔通信教育(リモート教育)の短所や長所を明らかにした上で、それぞれについて具体的に研究した。そして、タラス・シェフチェンコ記念キーウ国立大学を例に取り上げ、当大学での新型コロナウイルス流行時の対策を紹介し、極東・東南アジア言語文学科で作成されたブレンディッドラーニングテクノロジーを開発し、更に評価に焦点を当て、研究を続けている。なお、この世界的なパンデミックが、将来世代の教育にどんな影響を与えるかについて考察し、問題を提起する。

まず最初は、コロナウイルスのパンデミックが始まった2020年3月に取り戻って、ウクライナ全国で行われたリモート教育の概要についてです。

2020年3月12日最初のロックダウン宣言が出されてから現在まで大体すべてのウクライナの高等教育機関が遠隔通信教育制度になっています。また混合制度、つまり、さまざまなWebサーバー、プラットフォーム、リソース、ソーシャルネットワークを使用した遠隔教育を主に行いながら、週に2回ぐらい大学に通って、教室でいつも通りの授業を受ける制度を取る機関もあります。具体的に言いますと、学習者人数が多いクラス、例えば20人以上の学習者のための講義が遠隔形で、学習者が十人までのそんなに人数多くないクラスのための外国語の実践授業などがオフラインの形になっています。オフライン、つまり対面授業で使われる教室の大きさについては、それぞれの学習者の間の距離が2メートル開けて、すべての学習者が座れる教室だけ使えるという規則が決められました。そしてマスク着用と消毒剤が日常生活では欠かせないものになりました。2020年3月の時には、多くの人々がこのような状態は一か月くらいで終わると思っていましたが、今も終わりははっきり見えません。

コロナ禍で引き起こされたロックダウンや検疫対策の導入が私たち一人一人の生活を変えました。特に教育機関にも影響を与え、教師も学習者もその状況に適応する必要があります。主な共通目標は、コロナウイルス対策のすべての制限にもかかわらず、学習者が学習年を無事に修了できるようにすることでした。

大体1年半以上でいろいろな制限の中での生活から遠隔通信教育に関しましては、様々な短所と長所が出てきました。これらにつきまして、少し具体的にお話ししたいと思います。

国によってそれぞれ事情が異なると思いますが、ウクライナの場合、短所として次のようなことが挙げられます。

まず、教育設備など技術的な問題が挙げられます。実際には、すべてのウクライナの高等教育機関が技術的に準備されていたわけではありませんでした。こうした中で、講義とセミナーはGoogle Classroomを使用して実施されて、知識能力はテキストテストによって評価されました。プロジェクトの準備とプレゼンテーションはSkype、新しいプラットフォーム、リソース、ソーシャルネットワーク（例えば、Moodle、ズーム、Skype、Viber、Telegram、Messenger）を通して行われていました。また、教師は追加資料として、外部遠隔教育システム（Prometheusプラットフォーム）の使用を開始しました。

2) 次に学習者の側からは、心理的な問題も挙げられます。学習者がライブコミュニケーションの欠如、欠席した実習授業を再受講できないこと、課題の大幅な増加、課題を完了する時間がないことという問題を挙げています。また、両親もリモートワークで、兄弟もリモート教育なので、自由にコンピューターを使えない、取り合いになるといった問題も出てきました。

3) それから教師の側からは、オンラインコースでは教室での通常授業よりも詳細な宿題の説明を提供しなければならない、学習者の個別のカウンセリングが実施しづらい、学習者とのやり取りの時間が増えるといったことが多く聞かれます。

短所と同時に長所としては次のようなことが挙げられます。

1) 学習者は、まず、居住地、健康状態、家庭の経済的な状態に関係なく、都合のよい時間と場所で教育を受ける機会が増えたと述べています。

2) 次に、教育への平等なアクセスを提供する規律と自己組織化の向上が注目されます。

3) 教師は、自らの新たな役割を指摘しています。教師は、学習プロセスを調整して、常に自分のコースとスキルを向上させるメンター兼コンサルタントになります。

所属するキーウ大学では、リモート教育が始まった時に、決まった共通のやり方は

なかったため、それぞれの日本語教師が自分のやり方を決めて、授業を行いました。時間がたつにつれて、同僚同士がアドバイスを受け合いながら、みんなが互いに使えるプラットフォームやアプリが大体決まりました。最適であるのは以下の通りです。

1) **Google Classroom** です。(タスクの割(わり)当てと確認、評価、学生-教師と学生-学生の双方向コミュニケーションの維持を可能にするコース管理システムです。また、学習リソースと、口頭でのスピーチを教えるのに役立つ追加のリソースを1か所に保管できます。

2) **Memrise** です。(語彙を学習し、口頭で新しい単語を認識するスキルをトレーニングするためのプラットフォームです。)

3) **Kahoot!** というアプリです。(レッスンのオンラインコンポーネントとして、またリモートモードでの独立した作業のために、文法構造の使用と語彙の正しい使用を統合するためのテストを実行するためのアプリです。)

4) **YouTube** です。(教育ビデオ、ネイティブスピーカーによって作成されたオリジナルビデオの選択、および口頭スキルのトレーニングに焦点を当てた独自の視聴覚資料のダウンロードのためのサービスです。)

Kahoot! というアプリについて具体的に説明したいと思います。情報アプリ

「**Kahoot!**」は教育的なクイズ、ゲーム、テストの作成に使用されます。学生は、タブレット、ラップトップ、スマートフォンを持っている場合、つまりインターネットに接続されている任意のデバイスを使用している場合に、このアプリを使用できます。このアプリには、写真やビデオを使用する機能が含まれています。これにより、学生の知識をよりインタラクティブに評価する機会が提供されると同時に、教師が学習者の知識をかなり詳細に評価できます。このアプリのもう1つの機能は、テストを作成して都合のよいときに編集できることです。これにより、教師は時間を節約することができます。

アプリを操作するメカニズムを検討してみましょう。教師はテストを作成し、適切なPINコードを受け取り、学生がテスト自体にアクセスできるようにそのPINコードを学生に通知します。

また教師は、一番早く受けた学生の評価に追加ポイントを加えることができます。

学生の回答オプションは幾何学的な形で表示されて、またご覧の通りに回答と評価スコアは教師のモニターに自動的に表示されます。

たとえば、教師は口述する代わりに、学生が与えられた単語への正しい翻訳を選択したり、音声も追加出来るテストも作成できます。これにより、学生の耳による語彙の認識がさらにチェックできます。

そして、以下の7つの学習モデル内で日本語のブレンディッドラーニングテクノロジーを使用すれば、効果的にリモート教育が主催できます。7つの学習モデルのうちの4つは基本モデルで、3つは補助的なモデルです。

基本的なモデルは「**Face-to-FaceDriver**」のモデル、「作業の形態の代替分配」のモデル、「作業ゾーンの変更」のモデル、と「逆オーディエンス、または反転したオーディエンス」**「Flipped Classroom」**モデルが、学年とレベルに応じて、指定された順序で使用されます。

「**Face-to-FaceDriver**」のモデルは、遠隔教育中の教室での作業の形式の複製を提供します。A1レベルで日本語を勉強する1年生のために設計されています。

「作業の形態の代替分配」のモデルは「**Face-to-FaceDriver**」のモデルよりも高い割合の独立した作業を提供し、教室で教えられていないいくつかの資料の自律的な学習のために提供されます。A2レベルで日本語を勉強している2年生のために設計されています。

「作業ゾーンの変更」のモデルは、スピーチスキルの自律的な習得、およびリスニ

ングとスピーキングの対面および遠隔学習形式の使用の同等性を提供します。B1 レベルで日本語を勉強している 3 年生のために設計されています。

「逆オーディエンス、または反転したオーディエンス「Flipped Classroom」」モデルは主にプロジェクトメソッドを使用し、B2 レベルで日本語を勉強している 4 年生のために設計されています。

残りの«Flex», «Online Lab» と «Self-Blend»の 3 つのモデルは補助的なものであり、個々の学習目標の部分的な達成に焦点を当てています。

先ほど申しましたように「逆オーディエンス、または反転したオーディエンス「Flipped Classroom」」モデルが使用されていますが、そのモデルについて少し具体的にお話ししたいと思います。

教育プロセスの組織はご覧の通りになります。

「ニュースと新聞」、「異文化間コミュニケーション」、「スポーツと余暇」、「日本人と食文化」、「生活と環境」という 5 つのトピックで、授業の時間数、自律学習の時間数、文型や非言語要素を加味したコミュニケーション手段;日本の文化に関する言語情報はご覧の通りになります。

学習教材は以下の通りです。

- 1) 教材は、学習者がフルタイムで勉強している教科書「みんなの日本語中級」と「文化中級」から選ばれたトピックです。
 - 2) オンラインプラットフォーム Memrise に基づいて作成された、各レッスンの電子カードのデッキです。
 - 3) Kahoot! アプリに基づいて開発された、教室および課外学習中のオンラインパフォーマンスのための同期演習です。
 - 4) その他のインターネットリソース（特に、YouTube ビデオ、電子辞書、物議を醸す文法的小説および語彙的ニュアンスのネイティブスピーカーの説明、言語的および社会文化的能力の形成のためのリソース、リスニング、プロジェクトに必要な情報の検索）です。
 - 5) コース管理用の GoogleClassroom オンラインプラットフォームです。
- 教育の重要な方法はプロジェクトベースです。
- したがって、要約すると、日本語の混合学習の方法は、3 つの段階をカバーする練習のシステムで実装されていると言えます。
- 第 1 段階は、リスニングとスピーキングにおける単語、フレーズ、フレーズの統一の範囲でのスピーチと言語的および社会文化的スキルの形成です。
- 第 2 段階は、準備、基本、最終の段階を含むリスニングスキルの形成に焦点を当てます。
- 第 3 段階は、準備された、または準備されていないモノローグと対話型スピーチのトレーニングです。